

問1 後醍醐天皇が始めた「建武の新政」に対し、足利尊氏が反乱を起こして京都に幕府を開くに至った歴史的背景とその後の状況について述べた文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2024年 高知公立入試 類似）

1. 恩賞などで公家が優遇されたことに不満を持つ武士の支持を集めて挙兵し、京都に新たな天皇を立てたことで、二つの朝廷が並立する南北朝時代が始まった。
2. 元軍の襲来以降に生活が困窮した御家人を救うために徳政令を発布したが、効果がなかったため、自ら新しい幕府を組織して政治の安定を図った。
3. 有力な守護大名の勢力を抑えるために京都の室町に花の御所を造営し、南北朝の合一を成し遂げることで将軍の権威を全国に知らしめた。
4. 平氏を滅ぼした後後白河上皇と対立したが、朝廷から征夷大将軍に任命されたことを機に、政治の拠点を京都から東国の鎌倉へと移した。

問2 鎌倉幕府が滅亡した後、後醍醐天皇が始めた新しい政治は、わずか2年ほどで失敗に終わりました。この政治が武士たちの支持を失い、短期間で挫折した背景を説明した文として、最も適切なものはどれか。（2026年 群馬公立入試 類似）

1. 武士の功績に対する恩賞が不十分であったり、土地をめぐる裁判が混乱したりしたことで、武士の不満が高まったため
2. 鎌倉時代から続く執権政治をさらに強化しようとしたことで、天皇と公家の対立が深まったため
3. 承久の乱の際と同じように、天皇が武士に宣旨を出して兵を集めようとしたが、誰も応じなかったため
4. 北条氏の勢力が急速に回復し、再び鎌倉に幕府を再興して政治の実権を奪い返したため

問3 鎌倉時代から室町時代にかけて、和人とアイヌの人々との間で行われた交易や当時の社会状況について述べた文として、正しいものはどれですか。（2023年 長野県公立入試 類似）

1. アイヌの人々との交易によって、鮭や昆布、毛皮などの北方の産品が和人を通じて京都などの都市へ運ばれた。
2. 交易の対価として日本からは大量の銀が輸出され、アイヌの人々を通じて中国の特産品が大量に輸入された。
3. 西日本を中心に、干害に強い大唐米の栽培や二毛作が広がり、用水路管理のための組織化も進んだ。
4. アイヌの人々との交易を独占するため、幕府は全国に五人組を組織して農民の行動を厳しく制限した。

問4 室町時代、農民たちは「惣村」と呼ばれる自治組織を作り、村の運営を自分たちで行うようになりました。14世紀初頭には屋敷地が点在していた村でも、15世紀後半になると屋敷を一箇所に集め、周囲に「濠（ほり）」をめぐる形態へと変化した事例が見られます。このような村が作られた主な目的として、最も適切なものはどれですか。（2018年 長野県公立入試 類似）

1. 外敵や戦乱から村を守るため、自衛の機能を高めること
2. 庄園領主による支配を強化し、年貢を確実に徴収すること
3. 城下町を建設し、周辺地域との商業取引を盛んにすること
4. 幕府が農民の移動を制限し、居住地を管理しやすくすること

問5 室町時代の「惣」の仕組みや背景について、当時の社会情勢を踏まえて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 奈良公立入試 類似）

1. 農民たちが寄合を開いて村の掟を定め、団結して領主への直訴や土一揆を行うこともあった
2. 室町幕府が農民を支配するために組織した行政機関であり、役人である武士が運営を主導した
3. 仏教の布教を目的とした宗教的な集まりであり、農業経営や村の政治に関わることはなかった
4. 特定の特権を持つ商人たちが結成した同業者組織であり、市場での独占販売権を行使した

問6 室町時代の日明貿易（勘合貿易）の仕組みについて、日本側と明側で半分ずつ保管し、入港時に照らし合わせて本物であることを確認した札の名称を選びなさい。（2018年 佐賀公立入試 類似）

1. 勘合
2. 朱印状
3. 引換券
4. 割符

問7 中世の歴史年表において、室町幕府の成立に大きく貢献し、九州における有力な守護大名として勢力を誇った大友氏の説明として最も適切なものを選びなさい。（2020年 神奈川県公立入試 類似）

1. 足利尊氏を支援した功績により、豊前や豊後などの守護に任命された。
2. 鎌倉幕府の執権として、九州の御家人を統率し元寇の防衛にあたった。
3. 肥前を拠点として勢力を伸ばし、戦国時代に九州を二分する勢力となった。
4. 関ヶ原の戦いにおいて西軍に属したため、領地を大幅に削減された。

問8 15世紀に尚氏によって建国された琉球王国が、中国、日本、東南アジアを繋ぐ中継貿易によって繁栄を遂げた背景には、どのような当時の国際状況があったと考えられますか。その説明として最も適切なものを選びなさい。（2020年 高知公立入試 類似）

1. 中国の明が私的な海外渡航を禁じる「海禁」政策をとる中、琉球が朝貢貿易を許された特権を利用したため。
2. 日本国内の銀の生産量が減少し、琉球が中国からの金輸入を独占する代理人の役割を果たしたため。
3. 東南アジア諸国が日本との直接貿易を拒否したため、宗教的に中立な琉球が仲介役として選ばれたため。
4. モンゴル帝国の衰退により陸のシルクロードが遮断され、琉球を通る東シナ海ルートが唯一の道となったため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 恩賞などで公家が優遇されたことに不満を持つ武士の支持を集めて挙兵し、京都に新たな天皇を立てたことで、二つの朝廷が並立する南北朝時代が始まった。	建武の新政では、武士の土地所有権が不安定になったり、恩賞が不公平であったりしたため、武士たちはかつての幕府のような武家政権の再興を望みました。足利尊氏はこの期待に応える形で後醍醐天皇に背き、京都（北朝）と吉野（南朝）という二つの朝廷が約60年にわたって争う事態を招きました。なお、南北朝の合一や室町での御所造営は、3代将軍の足利義満の事績です。
問2	答え 1 武士の功績に対する恩賞が不十分であったり、土地をめぐる裁判が混乱したりしたことで、武士の不満が高まったため	建武の新政において、後醍醐天皇は天皇への権力集中を目指しましたが、鎌倉幕府を倒す際に活躍した武士たちの期待に応えることができませんでした。特に、命をかけて戦った恩賞としての土地配分が不公平であったり、慣れない法制度による裁判が停滞したりしたことは、生活の基盤を土地に置く武士たちの強い不満を招きました。その結果、武士たちは足利尊氏などの勢力に味方するようになり、新政は崩壊しました。
問3	答え 1 アイヌの人々との交易によって、鮭や昆布、毛皮などの北方の産物が和人を通じて京都などの都市へ運ばれた。	中世において、北海道を中心に独自の文化を築いていたアイヌの人々は、和人と盛んに交易を行いました。アイヌ側からは鮭、昆布、アザラシなどの毛皮といった北方の豊かな特産品が提供され、これらは和人の商船などによって京都をはじめとする各地へ運ばれ、当時の人々の食生活や文化を支える重要な役割を果たしました。
問4	答え 1 外敵や戦乱から村を守るため、自衛の機能を高めること	室町時代中期以降、応仁の乱などの戦乱が続く中で、農民たちは自衛のために結束を強めました。それまでバラバラだった屋敷地を集中させ、周囲に「濠」や土塁を築くことで、敵の侵入を防ぐ「環濠集落」が形成されました。これは惣村による自治の進展を示す象徴的な村の形態です。
問5	答え 1 農民たちが寄合を開いて村の掟を定め、団結して領主への直訴や土一揆を行うこともあった	「惣」は農民による自治組織であり、村の重要な事項は「寄合（よりあい）」という会議で決定されました。この団結力は単なる村の管理に留まらず、過重な年貢に苦しむ際には、領主に対して減免を求めたり、借金の帳消しを求める「土一揆（つちいっき）」へと発展したりすることもあり、当時の社会において大きな影響力を持ちました。
問6	答え 1 勘合	日明貿易では、偽造を防ぐために「勘合」と呼ばれる帳簿の切り紙（合い札）が使われました。日本側と明側がそれぞれを照合することで、正式な使節であることを証明したため、この貿易は「勘合貿易」とも呼ばれます。選択肢にある「朱印状」は戦国時代末期から江戸時代初期にかけての貿易で用いられた許可証であり、混同しないよう注意が必要です。
問7	答え 1 足利尊氏を支援した功績により、豊前や豊後などの守護に任命された。	大友氏は、鎌倉時代から続く名門ですが、特に室町幕府の創設者である足利尊氏を助けたことで、幕府から九州統治の重要な役割である「守護」に任じられました。これにより、豊前や豊後といった地域を支配する守護大名としての地位を確固たるものにしました。島津氏は薩摩を拠点とし、龍造寺氏は肥前を拠点とした一族です。
問8	答え 1 中国の明が私的な海外渡航を禁じる「海禁」政策をとる中、琉球が朝貢貿易を許された特権を利用したため。	当時の中国（明）は、民間人の勝手な海外渡航を禁じる「海禁」政策をとっており、周辺諸国との取引は「朝貢（皇帝に貢ぎ物をして返礼品を受け取る形式）」に限られていました。琉球王国はこの朝貢貿易を頻繁に行うことを許されていたため、中国の生糸や陶磁器を正規に手に入れ、それを東南アジアや日本へ転売する、という独占的な仲介ポジションを確立することができたのです。